情報局編輯

週報

昭和十一年十月一日第三種郵便物認可
昭和十八年十二月十五日發行

十二月十五日號

（毎週一回水曜日發行）

大東亞戰爭二周年記念日に當りて

内閣總理大臣　東條英機

太平洋戰局の轉機

戰局の回顧と展望

航空常識講座⑦

飛行機の武裝

374號

週報　昭和十一年十月一日第三種郵便物認可　昭和十八年十二月十五日發行　（毎週一回水曜日發行）　印刷局印刷　發行　（國定規格A5判）

ろたあくよ

手切丸彈

一枚ニ四ツで一等千円

第十九回

賣出十月二十日～十五日

抽籤十二月二十日

當籤八枚ニ付一枚ノ割合

第十八回彈丸切手當籤番號

注意　當籤本數及賞金ハ一組十枚ニ對スル分ヲ示シタルモノニシテ各組ニ共通ス（三、四等ノ調べ方）切手番號ノ千位以上ニ關係ナク百位以下ノ數字ダケヲ調ベルコト（例ヘバ363136 3,2363,97363等ハ何レモ下記353ニ該當スルニ付三等賞金）

切手番號ノ百位以下ノ數字ガ下記番號ト同一ノモノ								
一等（千圓）一組ニ付四本	36739	切手番號ノ百位以下ノ數字ガ下記番號ト同一ノモノ	切手番號ノ百位以下ノ數字ガ下記番號ト同一ノモノ	053	236	430	624	812
	37878			084	259	449	633	823
	39742			087	280	451	635	839
	40820			089	282	456	641	872
	41598			093	287	461	651	883
17960	42550			109	298	475	668	908
43908	44028	363	000	122	312	487	709	911
65752	50491	382	001	124	324	496	718	921
96553	52126	468	007	126	332	505	722	923
	68734	512	008	136	339	507	726	925
二等（百圓）一組ニ付二十本	70599	537	014	140	356	531	730	933
	75113	906	019	150	360	553	732	946
	83780	944	033	158	370	557	759	963
	89715	987	034	165	374	565	762	964
	93018		039	190	375	566	792	972
7296	三等（五圓）一組ニ付八百本	四等（二圓）一組ニ付一万一千本	044	192	377	567	794	973
14616			046	196	417	575	799	979
14780			051	202	418	604	802	990
24331				204	420	605	804	995
25657				205	427	622		

おへ局便郵てめとま上以枚五は手切だん濟の籤抽

。いさ下てへ換引と證證金貯置据別特、上の出差

週言

明治の終りから大正の初めに用ひられた尋常四年の小學讀本は、電報の書き方を敎へてゐる。親類から火事見舞の電報が來たのに對し、父は子に返電の起草を命ずる。子の作つた原案には無駄が多いので、父は何度も訂正させた結果、父子合作の返電に曰く「ヤケナイシンルヰミナブジ」。

この頃の電報には、「ゴシダウカタヨロシクオネガヒマウシアグ」といふやうな敬語附儀禮用や、「コンヤツクフロタテテオケ」といふやうな不用不急のものまで現れてゐる。

電話に至つては、「モシ、モシ、アノデスネ、コチラハデスネ」で、まぜ物ばかり多くて、ほんとの用向はなか〳〵出て來ないのがある。かと思ふと、電話口に向つて長々御無沙汰のお詫びやら、時候見舞やら述べてゐるのがある。

新聞、雜誌、出版物に現れる文章においても、文字徒らに多くして、效果これに伴はざるものを見受ける。或る座談會記事の一節「そんならばさういふことで、立派なものが出來てたとしても、それは先生の作品に比べたら、どうにも仕樣がないといふわけで、何ともならないのです」。

對ひ合つて話すときは差支へないとしても、我々の言葉が活字になつたり、電波にのつたりするときは、言葉の使ひ方にもつと氣をつけ、無駄のないやうにせねばならない。

無駄が多ければ、それだけ電力や資材や勞力を浪費することになるばかりでなく、用事が早く片づかず、戰力の損失となる。

文章は經國の大業、不朽の盛事。文と話とがしつかりせぬと、心はしつかりせぬ。電文の作り方、電話のかけ方、文章の書き方も、戰時的にするため一段の努力工夫を要するや切である。

大東亞戰爭第二周年記念日に當りて

內閣總理大臣　東條英機

昭和十六年十二月八日、畏くも、宣戰の大詔を拜し奉り、我等一億同胞、齊しく醜の御楯とならんことを誓ひ奉つてより、正に二ケ年を經過いたしたのであります。

顧みますれば、皇軍は開戰以來、御稜威の下、華謀勇戰、特に最近に至つては、敵の大規模反攻の好機を捉へて、相次いで比類なき大戰果を擧げ、究極の勝利に向つて力強き歩みを進めてをるのであります。私は こゝに、諸君と共に皇軍將兵の健闘に對し、滿腔の謝意を表すると共に、忠烈なる戰歿勇士に對しまして、謹んで敬弔の誠を捧げ、且つこの間、戰ひ拔く國民諸君の並々ならぬ御勞苦に對しまして、深甚なる敬意を表するものであります。

自信と希望に滿つ大東亞

正に二年前の今日、帝國は、米英の經濟的、軍事的壓迫による帝國存亡の危局を打開し、自存自衛を全うするため、蹶然干戈を執つて起ち上るのやむなきに至つたのであります。正義の師、一度進むや、米英の侵略勢力は忽ちにして東亞の全地域より驅逐掃蕩せられ、大東亞諸民族の自覺と熱情とは、澎湃として大東亞の天地に漲るに至つたのであります。

今や大東亞諸國家諸民族は、眞に兄弟の關係に立ち、いよ〳〵提携を密にし、豐富なる資源を日に增し戰力化しつゝ、道義に基づく大東亞を建設し、萬邦共榮の樂を偕にすべき共同の目的達成に向つて一路邁進いたしてをるのであります。しかして大東亞十億民族の半乎たる共同の決意は、過般の大東亞會議によつて、獅子吼にも强固にせられたのであります。これを開戰前の狀況に比すれば、大東亞の樣相は全く一變し、今や我等の前途は豁然として拓け、自信と希望とに滿ちてをるのであります。

一方、歐洲における盟邦は戰意ますます旺盛に、あらゆる困難に打ち克つて勇戰敵國を續けてをるのであ

ります。而して帝國とこれら盟邦との提携は、日に〳〵緊密の度を加へ、東西相呼應して米英の野望を粉碎し、世界新秩序を建設すべき共同目標に向つて勇躍前進を續けてをるのであります。

顧つて敵米英の指導者は口に正義人道、博愛仁義を叫びつゝ、その爲すところは、表裏全く相反するものがあるのであります。重なる我が病院船に對する暴戾極まりなき行爲の如きは、正に言語道斷であります。彼等は、自己本位の繁榮追及のためには、他國家他民族の犠牲の如きは悟としてこれを顧みないのであります。特に、東亞に對しては門戸開放、機會均等を唱へながら、自國の領土内においては、東亞の諸民族に對し常に門戸を閉鎖し、不平等の待遇を與へ、結局彼等の東亞民族に求むるものは、その永久の隷屬化であつたのであります。

非望を中外に暴露する敵米英

最近、カイロ會談において彼等米英の指導者は、擅に東亞の處置を論じ、帝國を三流國たらしめんと高言してをるのであります。これ正に戰ひに疲れ、前途の不安に襲はれ焦躁する彼等指導者が、當面の失敗を糊塗せんとする謀略的夢物語でありまして、洵に笑止の至りであります。しかも多年彼等が掠奪し來れる全世界に亘る領域と、現に彼等の羈絆の下に塗炭の苦しみを重ねつゝある被壓迫民族の解放に關しては、この夢物語においてすら、一言も觸れてをらないのであります。

彼等の求むるところは正義に非ず、はたまた人道に非ず、手段を擇ばざる自己繁榮であり、舊態依然たる飽くなき他民族の搾取であります。今や彼等は、凌落の一途を辿れる重慶政權に對し小策を弄し、甘言を用ひ、これをして、無益の抗戰を繼續せしめんことを、只管これ圖つてをるのであります。その眞意は正に大東亞諸國家諸民族間の離反を永續化し、これによつて再び東亞を米英の植民地に轉落せしめ、米英本位の東亞制覇の野望を達成せんとするに在るのであります。カイロ會談こそは、正にかゝる非望を中外に暴露し、彼等究極の戰爭目的が那邊に存するかを、自ら世界に向つて公言するの愚を演じたものにほかならないのであります。萬邦との交誼を篤うし、人種的差別を撤廢し、普く文化を交流し、進んで資源を開放し、もつて世界の進運に貢獻せんとする大東亞各國共同の崇高なる精神とは、全く相容れざる米英本位の非望を端的に

世界に露呈したものであります。

かくの如き横暴非道なる指導者に翻弄せられ、戰爭の苦惱日增しに加はる米英國民大衆が戰爭目的に疑念を抱くに至るべきは必定と信ぜらるゝところであります。しかも飽くなき野望達成のために狂奔する米英の指導者等は焦慮の餘り、今後、いよ〳〵その國民大衆を欺瞞しつゝ、苦しまぎれの執拗なる反攻を繰返すべきは、當然豫期せらるゝところであります。戰局のいよ〳〵激化し、長期化すべきは、我々の夙に覺悟してをるところであります。

勝利の鍵はわれ〳〵自身の手に

この秋に當り、非道なる米英に對し、我等の執るべき途は炳乎として昭らかであります。敵米英が暴力をもつて、その野望を達せんとする以上、我は、實力をもつてこれを破碎するばかりであります。隱忍と自重との最大限を重ね、自存自衛のため、やむにやまれずして起ち上つた二年前の今日の決意を常に新たにし、必勝の信念の下、いよ〳〵大東亞の結束を強化して、どこまでも米英擊摧の一路を邁進するばかりであります。敵の反攻如何に熾烈なりといへども、何ぞこれを意に介するものでありませうか。斷乎、屠殺殲滅をもつてこれに應ふるのみであります。さらに進んで、飽くまでも、どこまでも、徹底的痛擊を加へて、遂に彼等を屈服せしむるばかりであります。

蓋し、戰勝は空しく坐して獲ち得らるゝものではないのであります。一億國民が、外に在ると内に在ることを問はず、それ〴〵の職域において、はたまた日常の生活において、一切を捧げて徹底的に奉公の誠を致すことにより、初めて獲得せらるゝものであります。勝利の鍵はわれ〳〵自身の手に在るのであります。素朴熱烈なる忠誠心、烈々たる鬪魂、旺盛なる滅敵意志こそは戰勝の基礎であります。一億同胞一致團結、最善を盡して決死奮鬪するならば、勝利の榮冠は必ずや、我等の上に輝くのであります。

大東亞十億民族と共に

諸君、皇軍將兵は、最近またもやブーゲンビル、ギルバート方面において、また、中支那方面等におい

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

て、奮戰激鬪、見敵必殺、もつて赫々たる戰果を擧げてをるのであります。悠久の大義に生きんとするこれら將兵は、生還もとより期するところではないのであります。また、喜んで家と職とを殘して前線に赴き、または學窓を去つて戰陣に馳せ參ずる等、國民各層の熱烈なる鬪魂を見るとき、我々は、眞に必勝の信念を固くするものであります。

國民諸君、總員戰鬪配置にある國民諸君、我々一億同胞は、各々その職域において、悉く戰場に在るの決意を新たにし、戰時生活に徹底し、戰力を增强し、戰爭持久の構へを固め、もつて戰爭第三年を決勝の年となさんことを誓ふものであります。かくしてこそ我等は、天與の試練を突破して、皇國護持の途を全うすることが出來るのであります。

而して、この我等一億の心は卽ち大東亞十億の心であります。大東亞戰爭の完遂なくして、大東亞の建設はないのであります。大東亞十億の民族が、悉くその堵に安んじ、共存共榮し得るに至るか、或ひは再び轉落して米英の秕政の下に被壓迫民族の苦惱を嘗むるに至るか、正にこの大戰爭に懸つてゐるのであります。我等一億同胞は、大東亞十億民族と共に相携へて戰爭を完遂し、建設を完成せんことを、更めて固く期するものであります。

こゝに大東亞戰爭第二周年記念日を迎へ、國民諸君と共に、二年前の決意を新たにし、いよいよ必勝の信念を堅持して、御稜威の下、帝國の隆替、東亞の興廢を決すべき大東亞戰爭を勝ち拔き、誓つて聖旨に應へ奉らんことを期するものであります。

國民座右銘 十二月

十六日　仮の中にいまだ脫せざる穀粒あるが如きは、手を以て殼を去つて食せよ　道元
十七日　君子の財をみだりに用ゐずして惜むは、人に益あることに財を用ゐんが爲也　貝原益軒
十八日　糞水を掬まざれば善農と成ること能はず　太宰春臺
十九日　人を玩べば德を喪ひ、物を玩べば志を喪ふ　貴經
二十日　已むことを得ざるを誠と謂ふ　山鹿素行
二十一日　正成一人未だ生きてありと聞召され候はば、聖運遂に開かるべしと思召され候へ　楠木正成
二十二日　歲寒くして然る後松柏の凋むに後るゝを知る　孔子

戰局の回顧と展望

★★★

戰態勢を日に〳〵固めることが出來た年であつた。以下、さらに本年の主要作戰を回想してみよう。

ガ島、ニューギニア島 ブナ方面からの轉進

昭和十七年八月、敵のガダルカナル島上陸以來、陸に、海に、空に日米兩軍は文字通り激戰を續け、この間、帝國海軍は數次のソロモン海戰に赫々たる戰果を擧げつゝあつたが、我がガダルカナル島上陸作戰及びその補給は、ガ島飛行場を占據せる敵制空權下において行はなければならなかつたため、態勢極めて不利となり、遂に本年二月、ガ島より轉進するに至つた。ガ島上陸の我が陸軍將兵は、半年の長きに亘つて文字通り飢餓と闘ひ、惡疫と闘ひ、敵機の跳梁下、千辛萬苦に堪へつつあつたが、遂に命により轉進するに至つた。將兵の心中は察するに餘りある。

また、ニューギニア島ブナ方面に上陸、スタンレー山脈を突破して、ポートモレスビーをめざし進擊しつゝあつた我が軍は、モレスビーを指呼の間に望むところまで進出したのであるが、ガ島方面作戰の關係上、これまた命によりブナ附近上陸點に後退を命ぜられることになつた。寒濤高砂族の獻身的協力によつて、險難なモレスビーに道を拓いて進擊して來た路を、涙をのんで戻らざるを得なかつたことは、將兵として、さぞかし無念であつたであらう。

帝國海軍が數次の海戰に赫々たる戰果を收め、陸軍部隊もまた精魂を盡して戰つたにもかゝはらず、かくの如き結果を招來した所以のものは何であらうか。

これ一に太平洋戰闘の特質に基づくものである。即ち太平洋戰においては敵の補給路を遮斷し、我が補給路を安全になし得たものが戰場の勝利者となり得るのである。これがためには艦船を多數要し、制海權を把握するを要するのであるが、これは今日においては、さらに制空權によつて決せられることになつたのである。しかも制空權には絶對性はない。激烈なる消耗戰である。從つて空中戰力の補給力、擁言すれば一國の航空機生産能力によつて左右される關係にある。

山本司令長官の戰死

南太平洋海上及び空中戰は、前年に引續き日と共に激化しつゝある。即ち二月初旬、イサベル島沖海戰において帝國海軍は、敵巡洋艦以下十數隻を撃沈、飛行機八十數機を撃墜、四月七日フロリダ島沖海戰、同十四日ニューギニア東端ミルン灣方面の攻撃で多大の戰果を收めた。

四月以降、我が聯合艦隊の積極作戰により、殊に航空戰闘は激化し、四月中に敵機の撃墜破は三百機に垂んとし、この間、最前線にあつて親しく全般作戰を指導してをられた山本聯合艦隊司令長官は、敵と激烈な戰闘を交へ、遂に機上で壯烈な戰死を遂げられたのである。この山本司令長官の勇壯な陣頭指揮は、ます〳〵將兵の攻撃精神を振起させ、敵撃滅の戰意をいやが上にも昂揚せしめた。

航空戰闘は五月以降、南太平洋方面の戰域のみを數へても五月十三日ルッセル島上空戰、六月五日ショートランド、七日、十二日ルッセル島上空戰等がある。

アラカン方面の戰闘

敵は昨年末より緬印國境に近いアキャブを奪回すべく、約二ケ師團の兵力をもつて我がアキャブ守備部隊に執拗な攻撃を加へて來た。我が守備部隊は航空部隊と協同して、寡兵よく勇戰奮闘これを撃退しつゝあつたのであるが、我が軍は敵の反攻部隊をさらに大きく包圍、殲滅する作戰計畫を樹て、三月上旬より行動を開始した。

敵は、我が軍が通過不能と思はれたアラカン山系を踏破して敵の背後に進出したのに氣付かず、遂にマユ河畔に包圍殲滅された。我が軍は引續き果敢な追撃戰闘を加へ、これをインデン附近に捕捉して六ケ旅團を殲滅、五月八日にはブチドン、同十四日には緬印國境モンドウ附近を占領して多大の戰果を收め、敵總反攻の出鼻に痛烈な一撃を加へたのである。

一方、この方面の彼我航空作戰は日に激化してゐる。即ち昨年十二月中旬より五月末までに至る間、航空進攻並びに邀撃による撃墜約二百六十機、地上撃破炎上約二百五十機、地上部隊の防空戰闘により約百三十機、合計六百四十機であつた。なほ三月下旬以降は、特に航空部隊の積極的進攻作戰を行ひ、敵航空戰力、船舶、並びに軍事基地等に對し大なる打撃を與へてゐる。

アッツ島の戰闘

昨年六月、陸海軍部隊が遠く千島を距たる一千三百キロ、アリューシャン列島を奇襲占領した。その目的は、敵を該方面に牽制すると共に、帝國東北方面の防衛強化を圖ることにあつた。敵はこの方面に大いに脅威を感じ、陸軍數ケ師團、飛行機六、七百、戰艦、航空母艦以下有力なる艦隊を配備するに至つた。本年初め以來、敵は逐次前進の態勢を盛へ、二月末にはアムチトカ島に飛行場を推進、大型機を使用し、その海上兵力と相俟つて我が補給路を遮斷、わが守備部隊の孤立化を策し、空爆によつて直接我が戰力の消耗を企圖してゐたのである。

かゝる情勢において我が守備部隊は、連日の空襲を受けつゝ絶海の孤島にあつて、一年に亘る守備の大任を果して來たのであるが、五月十二日、敵

は折柄の濃霧を利用して南北東の三方面からアッツ島に上陸し來つた。こゝにおいて山崎部隊長以下全將兵、身に寸鐵を帶びざる非戰鬪員までも勇戰奮鬪、大いに日本男子の面目を發揮し、敵を擊破しつゝあつたのであるが、如何せん當時海空の主導權は敵にあつたため、死傷續出し、二十九日には生き殘る者、隊長以下僅かに百數十名となつた。こゝに至り山崎部隊長は二十九日夜、殘兵をもつて敵に最後の夜襲を試み、敵を殲滅することに決し、突擊を敢行、文字通り全員玉碎したのであつた。まことに壯烈鬼神を哭かしめ、懦夫をも起たしめる血戰であつた。

かくて山崎部隊將兵の英魂は、永へに北邊の護り神となつた。この報一度傳はるや、生きの山本聯合艦隊司令長官の壯烈なる戰死と共に、一億國民、老いも若きも感激せざるはなかつた。當に我が國民だけではなく、世界、否、敵さへもひとしく感動したのである。

アッツ島の作戰經過、その後の敵のキスカ島攻略企圖に鑑み、キスカ島守備のわが陸海軍部隊は撤收することになり、七月二十九日、何等敵に企圖を察知されることなく、全兵力の撤收を完了したのである。

このアッツ、キスカ兩島の作戰經過からして、太平洋上の戰鬪が大陸作戰とやゝその趣きを異にし、制空權、補給力が如何に重要な作戰要素であるかが感じられる。

敵はアッツ、キスカ島を占領後、航空基地を設定し、北千島幌筵島方面に二、三回爆擊し來つたが、その都度わが陸海軍部隊に邀擊され、多大の損害を出してゐる。

南太平洋方面

太平洋戰局の生決戰場ともいふべきソロモン、ニューギニア方面の南太平洋戰局が、日と共に悽愴苛烈の度を加へ、敵必死の反攻を續つて、航空基地爭奪を中心とする日米の一大攻防戰が展開されてゐる。敵當面の作戰目標が、ソロモン方面では、我が重要據點ニューブリテン島のラバウルであることは、米太平洋艦隊司令長官ニミッツの言明するところであり、ニューギニア方面では、北部ニューギニアの被占領地帶を奪回すると共に、舊蘭印の我が重要資源地帶の爆擊にあることは、本一年を通じての敵の行動によつて明らかである。

以下、さらに各地區の戰鬪經過の概要を述べてみよう。

ニューギニア方面

わが一部隊は今春以來、サラモア南方地區で優勢な敵と相對してゐたが、六月三十日にいたり敵の一部隊は、サラモア東南方地區に上陸し來り、わが先遣部隊は寡兵よく勇戰奮鬪、これを拒止してゐた。

しかるに敵はさらに九月四日及び同二十二日、ラエ及びフィンシハーヘン

附近、ホポイ附近に上陸し來つたので、わが陸海軍航空部隊は協同して攻擊、これを擊破し、次いで九月十二日、海軍航空部隊のモロベ灣在泊敵艦船に對する攻擊並びに十月十二日より十五日にわたる同方面の在泊敵艦船及び陸上軍事施設に對する攻擊、九月二十二日クレチン岬沖における敵輸送船團に對する攻擊等、累次の戰鬪により多大の戰果を收めた。

サラモア、ラエ附近において奮戰中であつたわが部隊は、敵に大打擊を與へ、十月中旬、ラエ北方地區に集結を完了したが、フィンシハーヘン方面においては目下激戰續行中である。

またマダン南方地區のわが部隊は、ラム河上流左岸地區に進出した敵と十月上旬以來交戰中である。

ソロモン諸島方面

六月三十日、敵有力部隊はソロモン群島中のレンドバ島に對し、次いで七月五日にはニューヂョーヂア島に對し

それ〴〵上陸し來つた。爾來、同方面は陸海空にわたる壯烈なる戰場となり、わが陸海軍部隊は晝夜連續、この敵に對し果敢な攻擊を反復すると共に、敵艦艇、飛行機、輸送船に大なる打擊を與へてゐる。

また海軍部隊は、さらに進んで敵後方基地並びにバニコロ島、フナフチ島、カントン島方面の敵補給基地に痛爆を加へた。一方、わが水雷戰隊は附近海面でしば〳〵敵の有力な海上部隊を强襲し、クラ灣夜戰、コロンバンガラ島沖夜戰をはじめ、相つぐ海戰に赫々たる戰果を收めた。

敵は七月以後、ます〳〵同方面の兵力を增强し、八月十五日には有力部隊をもつてベララベラ島に上陸し來つた。海軍部隊はこれに反復猛擊を加へ、敵艦船、飛行機に甚大な損害を與へた。

かくてニューヂョーヂア方面の戰場は、彼我部隊五に交錯していよ〳〵激烈を加へ、わが軍の勇戰奮鬪によつて敵の損害はまことに大なるものがあつたが、十月初旬に至り、この方面のわが部隊はこれを集結することになつた。

敵の反攻速度は最近とみに積極化した觀がある。去る二月、我が軍がガ島より轉進して以來、六月三十日のレンドバ島の上陸作戰開始まで六ケ月の準備を要したのが、十月上旬、我が方のコロンバンガラ島及びベララベラ島に轉進するに至るまでには、その期間は三ケ月に短縮され、次いで月餘を經ざる十月二十七日にはモノ島上陸となり、十一月一日にはブーガンビル島、二十一日にはギルバート諸島に對し上陸作戰を進め、さらに十二月五日には、敵機動部隊のマーシャル諸島への來襲となり、敵の反攻はいよ〳〵本格化して來たことを如實に示してゐる。

この間、西南太平洋方面では、十月二十七日、敵米軍のモノ島上陸以來、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十二月六日に亘る間において帝國海軍航空部隊は、六次の航空戦で敵戦艦四隻、航空母艦八隻をはじめ、その他艦艇五十五隻を撃沈、戦艦三隻、航空母艦三隻以下三十八隻を撃破、敵機五百七十餘機を撃墜するといふ實に赫々たる戦果を收めた。

また十一月十九日以來、中部太平洋ギルバート方面に上陸作戦を開始して來た敵に對しては、こゝにマキン、タラワの我が守備部隊との間に激戦が展開され、一方、我が航空部隊は十九日以降二十九日の間における四次に亘る航空戦で、敵航空母艦十一隻、戦艦以下六隻を撃沈してゐる。

越えて十二月五日には、敵機動部隊の艦載機約百機がマーシャル諸島の我が基地に來襲し來つたが、帝國海軍航空部隊は同日夕刻、マーシャル諸島北東海面でこの機動部隊を捕捉攻撃し、航空母艦、巡洋艦各一を撃沈、各一を撃破するの戦果を擧げてゐる。

これら南太平洋方面最近の戦局は、

一、戦艦、空母をはじめ、多數の大機動部隊を以て出撃して來たこと

一、我が戦略要線に對して、本格的な反攻を開始したこと

一、自己の戦力をあくまで信頼して、一擧に量をもつて注ぎ込めば、我が方を鎧袖一觸し得ると強引に來襲したこと

一、まづ我が航空基地を砲爆撃して、我が航空威力を先制壓倒した後、大機動部隊を繰り出して來たこと

一、我が約束打ちの猛攻によつて、殲滅的打撃を受けながら、次ぎから次ぎへと機動部隊をもつて反撃し來ること

等によつて、特徴づけられるが、その戦力の充實した點において、また戦意の熾烈さにおいて、開戦以來最大のものであると判斷して差支へなからう。從つて戦局今後の動向は、十一月上旬以來、ブーゲンビル島沖における我が一連の戦果によつて改善されたことは事實であるが、ニューブリテン島、ギルバート諸島等の我が戦略要線上における地位を考慮に入れるとき、斷じて輕視するを許さないのである。

支那大陸

支那派遣軍は、全支に亘り長遠な戦線を構成して、約三百万の重慶軍と約六十万の共産軍とに對し絶えず好機を捕捉し、大小幾多の戦闘を繰續し、敵戦力の撃摧と占據地域の治安確保とに邁進してゐる。

本年初頭決定された帝國の新たな對支處理方針の確立に伴ひ、重慶側の抗戦名目は完全に喪失し、その動搖蔽ひ難きものがあり、しかも我が作戦の進捗に應じて、于學忠軍、韓德勤軍及び王勁哉軍等、正規軍のうち、或ひは軍長以下師長を含む有力部隊の歸順を見、その他投降捕虜となる者すこぶる顯著なるのみならず、十八集太行作戦では北支唯一の蔣介石直系軍たる第二十四集團軍軍長で重慶の有數將領であつた龐炳勳將軍並びに孫殿英將軍が、部下七万餘を率ゐて我が軍に投降し來り、また魯南指揮部總指揮桑子恒將軍が、兵二万と共に國民政府陣營に合體したことは、重慶軍内の空氣の一端を示すもので、敵抗戦力の低下を如實に示すものと思はれる。

支那派遣軍の行つた今年の比較的大きな作戦としては、二、三月の蘇淮地區第八十九軍及び共産新四軍の掃蕩戦、中支洞庭湖北方地區王勁哉軍等に對する作戦、二月廣州灣への進駐、四、五月の山西、河北、河南省境方面の大討伐戦(十八集太行作戦)、五、六月の洞庭湖以西宜昌に亘る間の作戦、七月北支冀察戦區の掃蕩戦、九月油頭周邊、十一月洞庭湖西方重慶第六戦區の掃蕩戦、その他華北全域に亘り九月以來行はれてゐる大掃蕩戦等、一日約七十回にも達するのである。

一方、在支敵空軍勢力は、わが不斷の進攻爆撃により殲滅されてゐるが、今年に入り我が占領地にしば〳〵盲爆を企て、支那民衆を徒らに殺傷せしめてゐる。

必勝の要道

これを要するに本年の戦局は、戦略、戦術的にみれば、制空權の爭奪戦、局地の攻防戦に過ぎなかつたともいへるが、しかしこれを戦爭指導全般の見地からすれば、戦局の要求する國の戦力、即ち人的に、物的に、占領地工作に、一切を含めて一國のもつ綜合最高戦力を發揮する文字通りの總國力戦の態勢を整備しない限り、本戦爭に必勝を期することは不可能であることが痛感せしめられた年である。

特に太平洋戦の特質に鑑み、航空艦艇、防空戦力、とくに航空戦力の整備擴充こそは、超重點的急務中の急務であり、まことに必勝の要道であるのである。

こゝにおいて今年は、專ら戦力增強をめざす諸般の施策が次ぎ〳〵に斷行された。即ち企業整備、金屬回收、國民動員の強化、食糧自給對策の確立、さらに軍需省、運輸通信省の新設等がこれである。

しかも一方では、大東亞の建設工作がめざましく進められた。即ち國民政府の參戦、これに伴ふ對華政策の一大轉換、即ち帝國の治外法權の撤廢、外國租界の返還、さらに日華同盟條約の締結等、またビルマの獨立、比島共和國の誕生、マライ、ジャワにおける現住民の政治參與、自由印度假政府の成立、次いで東京において大東亞會議が開催され、大東亞共同宣言の發表があり、普に我が國のみならず、東亞民族多年の願望であつた東亞民族の東亞を實現し得たのである。

これら大東亞に對する諸政策の進展は即ち「萬邦をして各〻其の所を得しめ兆民をして悉く其の堵に安んぜしむる」我が肇國の大理想の具現されたものであつて、大東亞のため、まことに

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

祝福に堪へないところであると共に、また反面、大東亞建設及び戰力增強が擴して順調な過程にあることを裏書するものである。この時に當り、大東亞のためといへるのにも、中國自身のためにも、最も遺憾とすることは、重慶政權がいまなほ反省せず、依然として米英の手先となつてゐることである。

かやうに今年は、作戰の要請に對し、國の內外を擧げての決戰態勢施策が促進された、まことに意義深き年であつたのである。

以上述べた決戰態勢確立の諸施策の成否如何は、戰爭の運命を決するものである。全國民一丸となつて、その遂行に努力しなければならない。かくて近き將來には諸般の決戰態勢、特に航空戰力の劃期的擴充强化は、期して待つべきものがあると信ずる。

敵、殊に米國は物質力を背景として我を侮り、極めて放膽な戰法に出る傾向が見受けられる一面、ガ島、或ひはアッツ島における我が將兵の偉大なる精神力を認め、日本軍を再認識せんとしてゐる狀況である。その死を恐れざることと相俟つて、今後犧牲の累增する場合には、敵の戰意を喪失させ、延いてはその物質力も十分に發揮せしめないことが出來ると考へる。敵の物質力に徒らに眩惑されてはならない。あくまでも魂を中心としての戰法、生產で敵に當らなければならないのであつて、この點われ〳〵の反省し、工夫すべきこと少しとしない。

かくして我が有形、無形の戰力强化が實現され、特に空中優勢を獲得した曉には、こゝに完全に攻勢を取戻し、敵の反攻企圖を破摧することは勿論、進んで積極進攻作戰に轉じ、敵の死命を制することが可能となる。

來るべき昭和十九年の新らしき年は、敵もまた戰局を決する年なりとし、戰爭努力を集中しつゝあることが認められる。明年こそは實に、戰局主勳樓爭奪戰の年であつて、われ〳〵の責任、まことに重大なることを痛感せざるを得ない。正に一死以て皇國に報いるの秋、いよ〳〵日本精神を昂揚し、精魂を盡して御奉公し、以てこの重任を全うせんことを期さねばならぬ。

☆ 陸軍一ケ年の綜合戰果 ☆

大本營發表（十二月七日十五時）昭和十七年十二月上旬より昭和十八年十一月下旬に至る一箇年間に收めたる帝國陸軍の綜合戰果中主要なるもの並びに我が方の損害左の如し。

一、南方及びアリューシャン方面

交戰せる敵第一線兵力	約四〇万
敵に與へたる損害	約一九三、〇〇〇名
飛行機擊墜破（俘虜及び鹵獲約十万を含む）	二、七二八機
擊沈及び擊破せる艦船	一八五隻

二、支那方面

交戰せる敵第一線兵力	約二三七万
我が方に收容せる死傷	約二一万
俘虜及び歸順	二〇四、六七七名
鹵獲及び擊沈破船舶	八八隻
飛行機擊墜破	三、四六六機

三、我が方の損害

職死	三七三隻
飛行機	三、九六二名
	三二三機

太平洋戰局の轉機

大本營海軍報道部

顧みれば昭和十六年十二月八日、帝國海軍が疾風迅雷、ハワイ眞珠灣において敵太平洋艦隊並びに航空兵力に强襲痛擊を加へてより既に二星霜、太平洋全域並びにインド洋に亘る廣漠たる海域を蔽つて、帝國海軍の收めたる大戰果は、正に世界戰史上、未曾有の事實と稱するも過言でない。

即ちこの間、敵の蒙つた主なる損害だけでも、戰艦十八隻、航空母艦二十七隻、巡洋艦九十二隻、驅逐艦七十九隻、潛水艦百四十七隻を擊沈され、戰艦十五隻、航空母艦十二隻、巡洋艦五十六隻、驅逐艦四十七隻、潛水艦六十二隻を擊破されてをり、飛行機の擊墜五千百五十八機、同じく擊破千七百十六機といふ夥しき數に上つてゐるのである。

かゝる大損害を蒙りつゝも、敵國、特に米國戰爭指導者は、緒戰以來今日まで、この慘敗の事實をひた隱しにし、あらゆる術策を弄して自國民を欺瞞し來つたことは、世界公知の事實となつてゐる。かくて敵首腦部は、一方において自國民の眼を蔽ひつゝ、他方、何とかしてその不信を挽回せんものと躍起となり、軍備の大擴充、國內體制の强化を急速に促進し、着々その成果を擧げつゝあることも否み難き事實である。

もちろん我が國は開戰以來二ケ年間に、敵に大損害を與へたのみならず、大東亞における敵の據點を殆んど悉く覆滅し、强固なる戰略態勢を確立し、さらにこの戰略圈內において全力を擧げて建設工作を進め、今や大東亞全域はいよ〳〵その結束を强化し、戰力增强の一途に力强き巨步を進めつゝある。

しかして敵の最も危惧する點は、我に藉すに時日を以てするならば、大東亞における戰略態勢は逐日强化し、文字通り不敗の戰備が完成することであつて、特に米國戰爭指導者は、大東亞戰爭勃發以來、歐洲戰線と太平洋戰線のいづれに重點を置くべきかに迷ひつつあつたが、太平洋における我が戰略態勢が着々强化する事實を見せつけられて、いよ〳〵太平洋戰局の重大性を自覺、こゝに一氣呵成の對日進攻を企圖するに至つたものといへよう。

昨年八月、南太平洋ガダルカナル島

を始めとして、ソロモン群島、ニューギニア方面における一聯の敵の反攻作戦は、いづれも太平洋における我が戦略要線突破作戦の序曲であり、北方アリューシャン方面に對する進攻作戦と共に、太平洋戦線における敵米國の作戦計畫の端緒を拓いたものといふことが出來るであらう。

しかも爾來、敵の作戦は、航空基地の推進を根幹とする大兵力の機動による我が前進基地の蠶食に重點を置き、次第にその矛先を我が要線に近付け、かたゞ〳〵直接わが戦略要線を強行突破するための大規模なる作戦準備を着々進め、好機の熟するを待ちつゝあつた。

十月二十七日のモノ島上陸以來、ブーゲンビル島乃至ラバウルに對する敵海空軍の出撃は、右の敵作戦企圖の端的な現れであり、またギルバート諸島並びにマーシャル諸島に對するいはゆる〝ミッツ〟攻勢こそは、敵の反攻作戦の本格化を示すものとして大なる關心を寄せざるを得ない。

周知の如く、右の兩作戦は我が海軍航空部隊並びに海上部隊の善謀勇戦によつて、敵はその海空軍力に又しても甚大なる損害を喫したのであるが、豫じめ萬端の準備を整へた敵は、しば〳〵いふ如く、尨大なる飛行機、艦船の數を恃んで繰返し反攻に出づることを覺悟しなければならぬと同時に、敵は出撃の都度、潰滅的打撃を蒙つたとはいへ、ブーゲンビル島またはギルバート諸島の一部に取りついたことは、太平洋戦局の實相がます〳〵緊迫化の一途を辿りつゝあることを示すものにほかならない。

敵の對日反攻はいま正に酣である。しかも大損害を喫しつゝ、なほ且つ強引に喰ひ下がる敵の戦意とその強大なる戦備は、絶對に輕視を許さぬものがある。太平洋戦局の動きは、敵反攻作戦の本格化に伴ひ、いよ〳〵悽絶なる決戦へ突入しつゝある。

我等は大東亞戦爭第三年を迎へ、過去二年間における皇軍の大戦果を讃ふると同時に、緒戦において一たび屈した敵が、今やその戦力を擧げて遮二無二われに挑みかゝりつゝある眼前の事實を直視しなければならない。しかしてこの不逞なる敵の反攻を破摧し、さらに進んで敵の頭上に鐵槌を加ふることこそ、決戦第三年の緊急課題でなければならぬ。

大東亞戦爭は二ケ年を經て、「自存」の戦爭から「自衛」の戦爭となつた。大東亞の諸國家、諸民族が打つて一丸となり、大東亞の寶庫を開發し、これを擧げて戦力化することによつて、「自衛」の戦ひを敵米英撃滅の正義の征戦たらしめなければならない。

お知らせ

来る二十二日號は、都市の疎開問題につき、問答の形式で特輯の豫定

大東亞戦爭二ケ年間の敵米英軍に與へた人的損害

| 米軍（總計二七六、八〇五） | | |

二ヶ年の海軍綜合戰果と敵米英艦船關係人的損害推定

艦種	英米	アメリカ 撃沈	アメリカ 撃破	アメリカ 人的損害	イギリス 撃沈	イギリス 撃破	イギリス 人的損害	オランダ 撃沈	オランダ 撃破	わが方の損害 沈没	わが方の損害 大中破
戰艦	要員	隻数	隻数	捕虜	隻数	隻数	捕虜	隻数	隻数	隻数	隻数
戰艦（其他の他）	一、三〇〇	五	一	一、三〇〇							
空母	一、三〇〇	二	一	九、一〇〇							
巡洋艦（其他の他）	五〇〇	三	一	一、八〇〇							
驅逐艦（其他の他）	二、〇〇	八	一	三、六〇〇	五	一	三、〇〇〇				
特務艦（其他の他）	四〇	一			一						
潛水艦	一〇〇	一四	一	一四、五〇〇	一						
砲艦	一〇〇	八		八〇〇	一						
掃海艇	一〇〇	七		七〇〇	一						
魚雷艇	一〇	五		二、六〇〇	一						
小艦艇	三〇	二		二、〇〇〇							
特殊艦艇	五〇	五		七、五〇〇	二						
艦型未詳	三〇〇	六		九、〇〇〇	五						
合計		六九		六六、九〇〇	二四						
船舶（兵員輸送船）	一、三〇〇	五		五八、三〇〇	一〇一	二五、三〇〇	六、六〇〇				
船舶（其他の他）	一〇〇	一五		四五、〇〇〇	四〇	四〇、〇〇〇	八、〇〇〇				
合計		四五		一〇三、三〇〇	一四一	六五、三〇〇	一四、六〇〇				
總計		一三五		一七〇、二〇〇	一六五	七一、五〇〇	一四、六〇〇				
飛行機	數隻	五、一六八	撃破	一七、一六八	合計	六、八七四		自爆未錢遂	二、三五		

註

1. 本表は海軍報道を基礎とし、其他一般合理的推定を以て補足したるものにして、敵の損害は、米英間何れに帰属するや不明なるものは悉くこれを米国艦船とし、撃破の場合には其損害の二分の一を撃沈の場合には其損害の二分の一を撃破の場合は十分の九及び十分の一を撃破の場合は十分の一を撃破の場合は十分の一を撃破の場合は

りにして多くの機関銃をうまくとりつけるかは、世界各國とも難行苦行を重ね、なほ現在の問題として残されてゐる。

しての威力を備へ、空の花形としての役割を果されたものであつた。

第一次世界大戦で使用された飛行機の武装は、長年に亘る機まさる研究によつて、火器自身の発達は勿論、それの装備状況も時代より翌へ、さらに時と共で装備されたのも現はれてきた。

しかし飛行機の搭載位置には自ら制限があるので、如何にして多くの機関銃をうまくとりつけるかは、世界各國とも難題として残されてゐる。

佛蘭西のアス・ギ・ンメルは、ニューポート機のイスパノ發動機を通して装備し、佛蘭西のスパッド機に搭載したロ径三七七ミリ機関銃は、第一次世界大戦で使用されたものゝうち有名なものの一つであつた。

第一次世界大戦の飛行機は、位置的に制限があるので、如何にして多くの機関銃をうまくとりつけるかは、世界各國とも難題として残されてゐる。

その趨勢

搭載火器はその使用目的に依つて攻撃用、防禦用、さらに装備状況により既に固定に大別することが出来るが、銃口径は、その搭載火器にあるとも謂つても過言ではない。

と環境から考へても、軍用機の優劣を比較する基準の一半は、その搭載火器にあるとも謂つても過言ではない。

以上述べた搭載火器の重要性と環境から考へても、軍用機の優劣を比較する基準の一半は、その搭載火器にあるとも謂つても過言ではない。

列國とも命中率の向上に苦心してゐる。

その威力を増大させると共に、弾、焼夷弾、炸裂弾の使用等

数であつたといはれてゐる。

気球や飛行機に対して非常に有効

特に命中率向上のためプロペラ間内より弾丸を発射せねばならないの

で、発射機回轉との発射時期調整

機はプロペラの数が二枚より三枚、さらに四枚、六枚と増加してゆく今日、所謂に今後に残されてゐるといふことが出来よう。

また使用弾丸についても、昔の様に単一弾のみの時代は過ぎ、更に

ゆく今日、所謂に今後に残されてゐるといふことが出来よう。

また使用弾丸についても、昔の様に単一弾のみの時代は過ぎ、更に

一機に搭載される現在、各國の第一線機は殆んど各種類の搭載能力に優じて大小各種の装甲板、防弾タンクを使用し、防禦装備に遺憾なきを期してゐる。

そしてこれらの防禦装備を撃破するためは、搭載火器もまたこれら装甲板を貫徹し得る弾丸を使用しなければならない。

今日、搭載火器の雄ひとなり、装甲板の厚さと火器の口径は互に消ひつ消はれつ伸大してゐるのである。

第一次大戦勃発前後に各國で愛用された口径七・七ミリ機関銃は威力不十分となり、漸次その姿を消つて口径一三・七ミリ機関銃が出現するに至つたが、なほ五〇ミリ機関砲の出現を待つて、近々いづれかの戦場に新威力を誇示することであらう。

しかしながら、このやうな口径拡大は、必然的に重量の増加を来す。即ち機銃の代りに榴弾砲を装備することは、故障原因の減少を意味するのである。

然るに、いまや飛行機数を少くして、しかも大口径の重砲を撃つ為めに、一機必中の必要は一層深められたのである。また一方、大口径砲のみならず小口径砲でも命中率向上のためには、四発機でもとうしてもプロペラ圏内発射が必要で、発動機回轉と極力を備へた砲弾の威力には、両者の関係が主題となつてきた。大戦の進展はこれらの威力に不十分を感じたのが、さらに口径三〇ミリ機関銃が主題とならんとしてゐる現状である。そして又、さらに大口径としては口径三〇ミリ、三七ミリ機関砲が出現し、さらに四〇ミリ機関砲も欧洲戦場に出現するに至つたが、なほ五〇ミリ機関砲の出現を待ち、遂に新来にあらず、近々いづれかの戦場に新威力を誇示することであらう。

米國

米國では、大戦初期以来、二・七ミリ機関銃の使用を開始し、これを以て火器の主種としてゐたが、威力増大のため一部には三七ミリ機関砲を使用するやうになつた。米國ではどういふわけか不思議に二〇ミリ機関砲の使用は殆んど見られず、無論に大口径砲の搭載を企図してゐたところが、遂に左つて二〇ミリ機関砲の威力を察知したのか、一機関銃が二〇ミリ砲に代

第一圖 ベルP—39(エアラコブラ)の三七ミリ機関砲

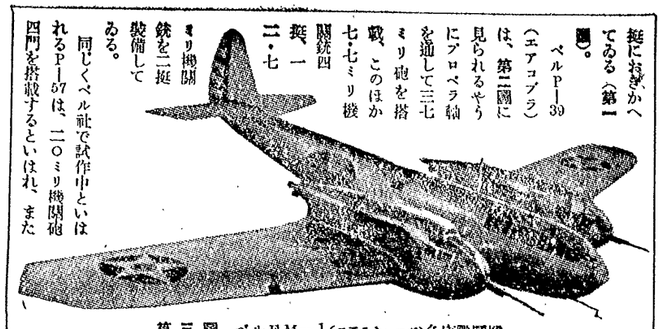
第二圖 カーチスP—40Kの射撃試験

先づ機関銃では例の双発双胴のロッキードP—38は、設計当初のものは機首に七・七ミリ機関銃二挺、二・七ミリ機関銃二挺、三七ミリ機関銃一挺、三七ミリ機関銃二挺、三七ミリ機関銃一門であつたが、最近のものは三七ミリ砲が二〇ミリ機関砲に代つて装備されてゐるものも少くない。

お馴染みのカーチスP—40は、B型では七・七ミリ機関銃を十乃至十二挺搭載してゐたが、E型、F型、J型、K型と改造し、二・七ミリ機関銃六挺、二・七ミリ機関銃二挺、二・七ミリ機関銃一挺、三七ミリ機関銃一挺、三七ミリ機関銃二挺、三七ミリ機関銃一挺、三七ミリ機関銃一挺、三七ミリ機関銃一

挺におさかへてゐる（第一圖）。

ベルP—39（エアコブラ）は、第二圖に見られるやうにプロペラ軸を通して三七ミリ砲を搭載、このほか七・七ミリ機關銃四挺、一二・七ミリ機關銃二挺を搭載してゐる。



第三圖　ベルFM—1（エアラキューダ）多座戰鬪機

FM—1（エアラキューダ）は第三圖に示すやうに、わざ〳〵發動機を後方向けにつけて、前側には三七ミリ砲を左右に各一門つけ、さらに七・七ミリ機關銃、一二・七ミリ機關銃各二挺づゝを搭載し、乘員も五名といふ恐しく嵩つた恰好の火力一點張りの戰鬪機と傳へられる。

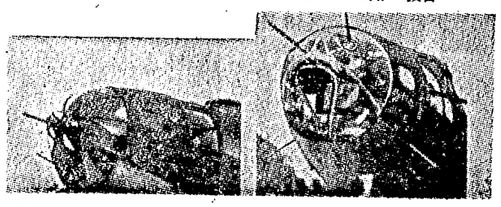
ダグラスP—70（双發攻撃機A—20Aの改造型）は、夜間戰鬪機として使用するらしく、機首に電波警戒機を裝備し、一二・七ミリ機關銃を四挺搭載してゐるといふ。

ソロモン方面に今夏來襲を現はしてゐる海軍戰鬪機ヴォートシコルスキーF4U—1（コルセア）は、一二・七ミリ機關銃六挺を搭載してゐる。

以上、米空軍戰鬪機は一二・七ミリ機關銃が主體であるが、遂次二〇ミリ機關砲に代へられたのも現はれよう。たゞこゝに三七ミリ砲が姿を消したのは、通常の戰鬪機用として效果が一應否定された形になつてゐるが、對戰車攻撃用としては列國ともますゝ〳〵重要視して、米國では三七ミリ機關砲を五門搭載した對戰車攻撃機が試作中と傳へられてゐる。

爆撃機　次ぎに爆撃機について述べよう。これの搭載火器は防禦用として使用する場合が大部分で、また火器の重量は、直接、爆彈その他に影響してくるので、無暗に大口徑のものは用ひるわけにゆかず、現在のところ七・七ミリ機關銃、一二・七ミリ機關銃の併用が大部分を占めてゐる。たゞこれの旋回砲架は、各國とも苦心

第四圖　ボーイングB—17E（左）とF（右）の機首



の跡が見られ、どうしたら圓滑、迅速に旋回できるか、さらに遠隔操作の場合の振動防止策、取付位置もなるべく射撃不能な死角を少くして、各方向より群がり來る敵戰鬪機の攻撃に對して遺憾ないやうに苦心してゐる。

第五圖　ボーイングB—17E　胴體下方球形砲架

米國の四發爆撃機ボーイングB—17（空の要塞）のE型では七・七ミリ機關銃一一二挺、一二・七ミリ機關銃八挺であつたが、F型では、これを強化して、七・七ミリ一一二挺、一二・七ミリ十一挺にした。これのE型、F型の機首は第四圖に（また右側の武裝、翼下の例は四四年第三六二號參照）示してある（第四圖、第五圖）。

ボーイングB—17と並んで敵米國が最も愛用してゐる四發爆撃機コンソリデーテッドB—24は、七・七ミリ機關銃五挺、一二・七ミリ機關銃五挺を搭載してゐるが、最近の改良型の中には、英國製三〇ミリ機關砲四門を搭載して、對潜水艦警戒用に使つてゐるともいはれてゐる。第六圖は同機の尾部銃座を示す。

第六圖　コンソリデーテッドB—24尾部銃、一二・七ミリ機關銃二挺

双發爆撃機ノースアメリカンB—25は昨年四月、我が本土に來襲したものであるが、これの武裝は普通の爆撃機として使ふ時は一二・七ミリ機關銃を機首に二挺もつのみである。現に昨年空襲の際も尾部には木製の擬銃をつけて來たといふ某れたものであるが、對地銃撃に使ふ、即ち攻撃機的用法のためには、一二・七ミリ機關銃を機首に五挺、後上方並びに下部に各二挺、尾部に一挺、計十挺を針鼠のやうに持つてゐるものもある。

このほか試作中といはれる超大型の四發爆撃機にはグラスB—19があり、これは機關砲四門、機關銃十二—十六挺との噂である。また最近いよ〳〵生産に乘り出したといふボーイングB—29は機關銃數挺、機關砲四門といはれてゐる。

英國

戰鬪機　英國について概觀すると、英國は武裝には相當の進歩の跡をみせて、他國機に比べると多銃武裝でその大威力を誇つてゐるのが目立つ。

英國として大戰當初は、以下述べるやうに小口徑（七・七ミリ機關銃）多銃を第一として、戰鬪機では一機に八挺、十二挺を裝備してゐたが、最近に至つて小口徑

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の威力不十分を悟つたのか、急遽二〇ミリ機關砲に代へてゐる。

その最も好い例ほ**ホーカー・ハリケーン**で、I型からII—B型までは、七・七ミリ機關銃八挺乃至十二挺をそれ〴〵搭載してゐたが、II—C型では二〇ミリ機關砲四門を搭載するやうになつた（**第七圖**、**第八圖**）。さらに同機のII—D型では四〇ミリ機關砲二門を搭載し、タンク・バスター（戦車破り）と呼んで對戦車攻撃用に使つてゐる。

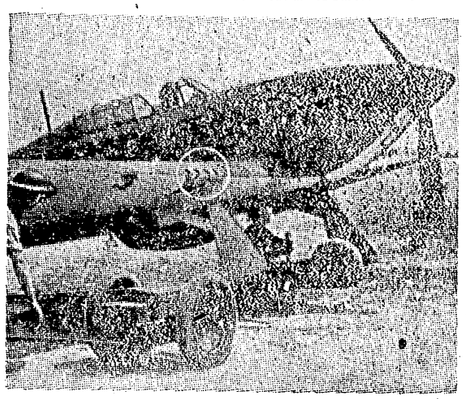
ハリケーンよりも新らしく且つ優秀だと歌の自慢する**スピットファイアー**については、ハリケーンもスピットファイアーについても同樣のことがいへる。II型では七・七ミリ機關銃八挺であつたものが、V型では七・七ミリ機關銃四挺、IX型では二〇ミリ機關砲二門となつてゐる（**第九圖**）。

しかし英國の戦闘機としては、ハリケーンもスピットファイアーも既に二流に陥し、代つて登場した英空軍の新鋭花形戦闘機**ホーカー・タイフーン**だが、これも實際に姿を現はすまでは美しい流線型機として評判であつたが、實物を見ると、かなり不恰好なものとなつて現はれた。

これの武裝はI—A型は七・七ミリ機關銃十二挺だつたが、I—B型で二〇ミリ機關砲四門になり、I—C型では米國製一二・七ミリ機關銃八挺搭載となつてゐる（**第十圖**）。

第七圖　ハリケーンI型

（○印が七・七ミリ機關銃銃口、片翼に四挺、計八挺を搭載してゐる）



第八圖　ハリケーンI—C型

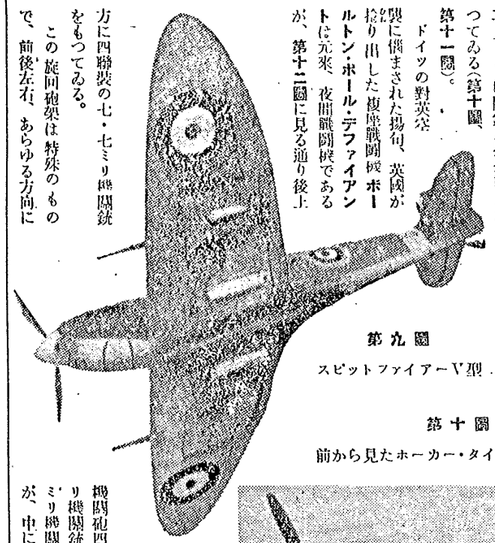
（二〇ミリ機關砲及びその彈帶を示す　片翼に二門、計四門搭載してゐる）

第十圖　ドイツの對英空襲に惨まされた揚句、英國が捻り出した複座戦闘機**ボールトン・ポール・デファイアント**は元來、夜間戦闘機であるが、**第十二圖**に見る通り後上方に四聯裝の七・七ミリ機關銃をもつてゐる。

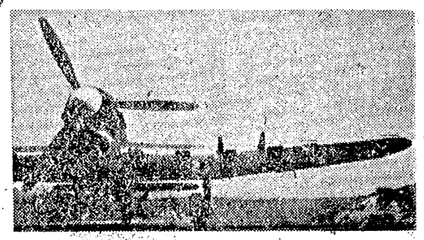
この旋回砲架は特殊のもので、前後左右、あらゆる方向に旋回できるやうになつてをり、その出現は初期において相當の威力を發揮したといふ。

デファイアントが影をひそめて代つて登場した複座戦闘機**ブリストル・ビューファイター**は機首に二〇ミリ機關砲四門、左主翼に七・七ミリ機關銃四挺、右主翼に七・七ミリ機關銃二挺を搭載してゐるが、中には**第十三圖**の如く後上方に二聯裝の七・七ミリ機關銃を増加搭載するものもある。

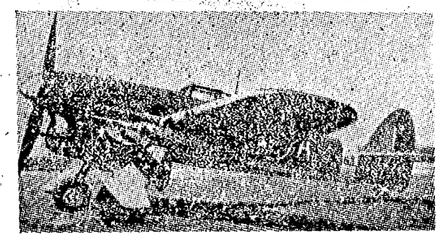
このビューファイターは英



第九圖　スピットファイアーV型



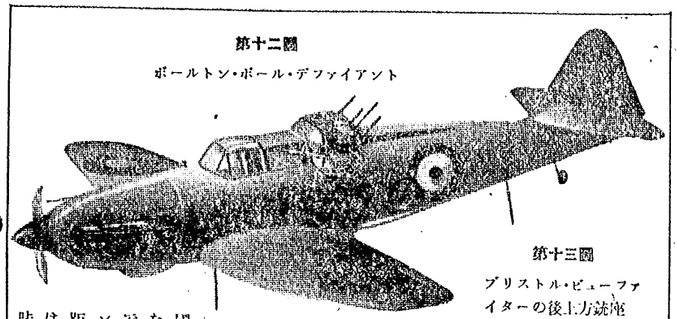
第十圖　ホーカー・タイフーンI—B型を前から見た



第十一圖　横から見たホーカー・タイフーンI—B型（片翼に二〇ミリ機關砲四門を搭載してゐる）

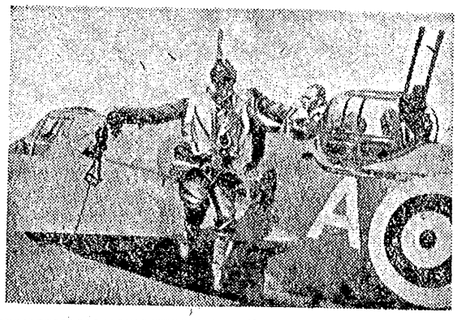
第十二圖

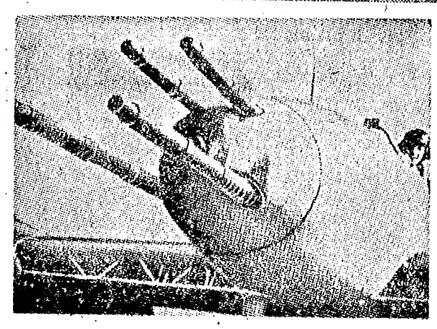
ボールトン・ポール・デファイアント



第十三圖

ブリストル・ビューファイターの後上方銃座





第十四圖

ウェストランド・ワールウィンド

國夜間戦闘機の主翼をなすのみなら寸、最近ではビルマ方面、バンダ海方面等に盡間長距離戦闘機として現はれ、地上襲撃などの味な眞似をやつてゐる（第十三圖）。

このほか、最近その一風變つた恰好で賣出した双發單座戦闘機**ウェストランド・ワールウィンド**機は第十四圖に示すやうに、機首に二〇ミリ機關砲四門を不恰好にならべて、機關砲を機首につけたいばかりに邪魔な發動機を兩翼に

爆撃機

次ぎに英國の爆撃機について述べよう。

英國の爆撃機は殆んど七・七ミリ機關銃を搭載

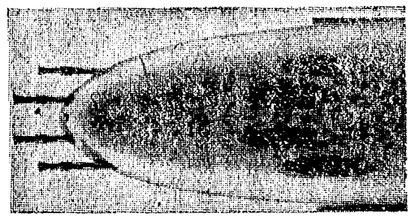
してゐるのは興味あることで、英國爆撃機が戦闘機の掩護なしに出撃するのを避けようとする傾向がある原因の一つは、こゝにあると考へてよいであらう。しかし最近になつて木製機として有名な**デハヴィランド・モスキート**DH—98なる新鋭双發輕爆撃機が現はれ、これによつてやつと爆撃機のみの出撃が可能になつたともいふことが出來るのではあるまいか。

モスキート機もI型からIV型までであつて、これの武裝はI型からIII型までは第十五圖でわかるやうに、機首尖端に七・七ミリ機關銃四挺、機首下部に二〇ミリ機關砲四門を搭載してをり、さらにIV型では、このほかに兩發動機ナセルの後部に七・七ミリ機關銃を一挺づゝ固定して後方からの攻撃を防いでゐる。

加藤少將の最後の戦闘で小糧にも逃げまどつた英國の双發輕爆撃機**ブリストル・ブレンハイム**もI型からIV型まであり、七・七ミリ機關銃を五挺搭載してゐたが、木機も後方からの攻撃を恐れてか、V型では胴體下部に後向きに双聯の機關銃を裝備、武裝強化をはかつてビスレイと呼ばれてゐる。ブレンハイムより形は大分大きくなるが、同じく双發爆撃機**アームストロ**

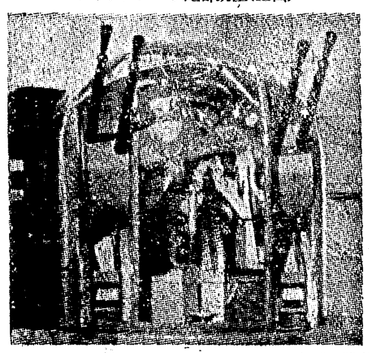
第十五圖

モスキートII型の機首



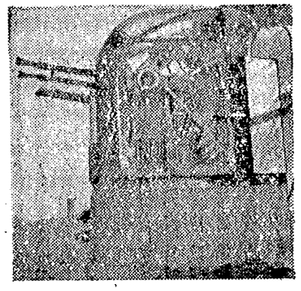
第十六圖

ホイットレーの尾部銃座（正面）



第十七圖

ホイットレーの尾部銃座（側面）



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ング・ホイットワース・ホイットレーの尾部銃座を第十六圖、第十七圖によつて見て戴きたい。この飛行機はそのくせ、機首は七・七五ミリ一挺しかないのである。

對獨爆撃機に木腰を抜き出した英國は、**ランカスター、ハリファックス、スターリング**等の四發機を續々造り出した。スターリングを例にとると、**第十八圖**のやうに機首に二聯、尾部に四聯、胴體上に二聯の旋回砲塔を有する。いづれも七・七ミリで英國流であるが、最近は上部の二聯裝は左右に分れて二聯づゝ、都合四挺のものも出來たらしい。

その將來

搭載火器の將來については、一應二〇ミリ排關砲に落着きつゝあるやうにもみえる。從つて餘すところは、差しあたつて彈丸の威力增大が問題となることと思はれるが、これとてもやがて口徑不足を敍く日がくる。即ち更に大口徑へ〳〵と拍車をかける日が來ることに疑ひはない。

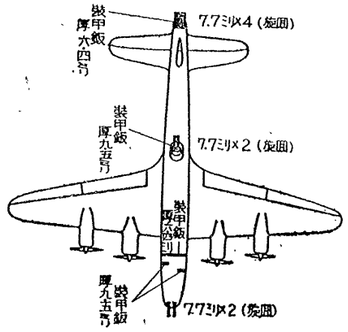
もとより搭載火器の進歩は戰鬪機にあるが、戰鬪機の進歩は更に爆撃機の進歩ともなる。しかし戰鬪機に對する爆撃機はあくまで受身である。しかも爆撃機の目標となるべき部分は、乗員は勿論、發動機、燃料タンクに限らない。極度に技術の粹を集めた飛行機は、その一部分たりとも無くしては飛行不能に陥り易い。こゝに爆撃機の武裝強化の困難性がある。かうして口徑と裝甲鈑、或ひは防彈タンクとの爭ひはどこまでも際限なく續き、この問題がだん〳〵進んでゆくと、遂には撃ある軍艦の如きものが要求されこやうにもたるであらう。

最近の新聞の傳へるところによれば、搭載火器の一種と考へられるものにロケット爆彈が登場し始めた。これも試み自身に非常に貴重なものであり、ドイツでは特にその光輝をつけて、研究或ひは製作に乗り出してゐるらしいが、現在のところ飛行機用としての效果は未だ未知數である。

しかし各國共かゝる新兵器の考案が研究され、試作されてゐる現在、無線操縦と組合せて一發必中の新火力兵器として航空決戰の樣相に一つの大きな變革を齎す日も遠くはあるまいと思はれる。

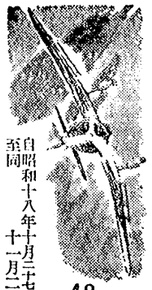
× ×

以上、主として敵側の例をとつて列國航空機の搭載火器の趨勢を解說したが、我々はいつ如何なる新兵器がどこから現はれてきても、これに打ち勝つ確乎たる信念と充實した實力とが必要であることを銘記すべきである。



第十八圖
ショート・スターリング武裝要圖

大東亞戰爭日誌



48

自昭和十八年十月二七日
至同 十一月二日

十月二十七日（水）

敵艦船六隻を撃沈破

海軍航空部隊はモノ島（ブーゲンビル島南方）に上陸の敵船團、護衛艦隊を攻撃、次ぎの戰果を擧げた

撃沈 巡洋艦二隻（うち一隻は我が自爆機の體當りによる）、大型輸送船一隻

撃破 小型輸送船一隻
大型輸送船一隻、小型輸送船一隻

我が方の損害 未歸還三機

蘭支國境方面に作戰中の我が部隊は、怒江以西の重慶軍の退路を完全に遮斷、隨所に敗敵を捕捉殲滅し、十月上旬以來、次ぎの戰果を收めた

撃破 死傷一千二百、俘虜一一〇、彈藥約十三万發

十月二十九日（金）

ニューギニア戰線の戰果

一、フィンシハーヘン附近の我が部隊は、果敢なる攻撃によつて十月十六日以來、次ぎの戰果を收めた

潰滅 死體約二千六百五十、火砲六門、銃器六百五十挺、各種彈藥約十四万發、大砲十四門、彈藥集積所二ヶ所、糧秣集積所三ヶ所爆破

二、マダン南方地區の我が部隊は、果敢なる攻撃を續行、九月下旬以來、敵に一千名以上の損害を與へた

十一月一日（月）

敵部隊、ブーゲンビル島に上陸

ブーゲンビル島陸軍部隊は、一日朝、同島トロキナ岬附近、二日朝、ハモン南側地區に上陸の敵部隊を邀撃、激戰中であるが、海軍航空部隊・海上部隊は地上部隊と協力、敵上陸部隊の殲滅、後續部隊の阻止壞滅に努力中

ブーゲンビル島沖海戰

海軍海上部隊は夜間、ブーゲンビル島ガゼレ灣外で行力なる敵巡洋艦・驅逐艦隊と交戰、次ぎの戰果を擧げた

撃沈 大型巡洋艦一隻、大型驅逐艦二隻
大型巡洋艦二隻、巡洋艦（もしくは大型驅逐艦）一隻

撃破 大型巡洋艦一―二隻、驅逐艦二隻

我が方の損害 同志討により驅逐艦一隻沈沒、巡洋艦一隻小破

十一月二日（火）

ラバウルで二百一機を撃墜

海軍航空部隊・海上部隊・地上部隊は、ラバウルに來襲の敵機二百數十機のうち二百一機を撃墜

海軍航空部隊により百二十七機（うち不確實三十六機）
海上部隊により五十一機（うち不確實一機）
地上部隊により二十三機

我が方の損害 自爆および未歸還十五機

敵艦船七隻を撃沈破

海軍航空部隊は十月三十一日より十一月二日朝にかけ、モノ島東方およびブーゲンビル島西方において敵輸送船團を攻撃、次ぎの戰果を擧げた

撃沈 大型輸送船一隻
巡洋艦一隻、驅逐艦一隻、上陸用舟艇四十隻以上

撃破 大型巡洋艦一隻、巡洋艦（または輸送艦）一隻、大型輸送船二隻、小型舟艇多數

撃墜 十機

我が方の損害 自爆未歸還十五機

ブカ島で三十九機を撃墜

ブカ島地上部隊は、來襲の敵機百三十五機を攻撃、三十九機を撃墜

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十二月八日の決意

戰爭に勝つためには、かりそめにも、こんなことをしてゐては勝ちぬけない、と傳達しく敵へられる。

感謝いたします、涙んだときには、日常に照らしてきびしい自己反省を加へるのに、いつの間にか、ぬるま湯に入つてしまつてゐる。

背を、湯に入つてしまつてゐる。

そしてこのぬるま湯が、國民の横流れ、買出しの温床が、たいと思ふ者は一人もゐない筈だ。自分一人の行爲が直接利敵行爲になるとなると知つたら、敗戰の責となる限り、敢てしようとする者はゐないだらう。

たゞ、この一人一人が、これを敵へて、ぬるま湯から抜け出すことだ。

絶対に思ひを致し血眼になつて、ぬるま湯から抜け出すことだ。

きびしい自己反省の眼を加へることだ。お互が同志的結合によつて、温室を、戰場と化し合ふことだ。

つねに、高度な緊張を、常生活に身を律することだ。

絶対に、まづ自分自身、日々、行動することだ。

感謝、北滿に、感じたら、直ちに、千足りないと思つたら、フーガ、ニアの常林を考へるのだ。物が、ピルに死闘する勇士に想ひを馳せることだ。

感謝、北滿に、感じたる將兵を想ふのだ。暑いと感じたら、ニューギニアの常林を考へるのだ。物が、足りないと思つたら、フーガ、ピルに死闘する勇士に想ひを馳せることだ。

感謝、それでも、寒かつたら、上着を脱いで竹刀を振るのだ。それでも暑かつたら、防空頭巾をつけて、走るのだ。それでも、頭が、痛いたらの根を噛んでみるのだ。

感謝、あの日の感激を新たに、早朝宮城前に頭を垂れ、敬礼して後、の社頭に、御つき、陸軍として、二年前、そのまゝの緊張の色が、漲つてゐるのを見つゝ、私は、心中深く、決意を固めた。

「足りない」に勝ち抜け

モンペを身につけて、長袖を帶に挟み、利己的精神を、感じ、買出し、闇人、闇よ、の、黒、あなた、達は、なぜ、足りない、といふのか。

に、優、死すべきである。

あなた、達は、足りないのは、あなた、の心と、同の、訓練で、す。

暫かに、考へて、下さい。あなた、達の、買出し、活の、時、となつてゐる、か、を。

例へば、私たち、松戸市では、あなた、達が、蔬菜、を、絶対に、市民、の、口、に、入る、ま、で、、、

昭和十一年十月一日第三種郵便物認可
昭和十八年十二月二十二日發行
（毎週一回水曜日發行）

週報

情報局編輯

敵前疎開問答

二十二頁

昭和十八年十二月十五日發行
第三種郵便物認可
（毎週一回水曜日發行）
印刷局印刷
（國定規格A5判）
五錢

375號

四十五歳まで國民登録
年末年始の旅客・荷物の輸送調整
土地改良で増産した實例（2）

一月の常會徹底事項

週報 昭和十一年十月一日第三種郵便物認可 昭和十八年十二月十五日發行

大詔に應へまつらん債券

12月拡張　貯蓄債券　報國債券　當籤番號（北ノ一）

支拂開始期　昭和19年1月1日

支拂場所　日本勧業銀行本支店、出張所・代理店及集配郵便局

（番號ゴシック中太字ハ個別、其他内数ハ素数金）

全當籤番號掲載紙　官報、債券時報設外、各地ノ主ナル新聞

昭和18年12月　大藏省・日本勧業銀行

	1507	5895	10084	14379	18900	23023	27716	30053	35507	41029	45958	50887	57160	61947	66646	71538
戰時報國債券	1553	5919	10149	14532	18925	23042	27770	30071	35532	41062	45964	50969	57175	62051	66668	71546
	1565	6015	10191	14633	18977	23086	27810	30104	35581	41158	46050	50974	57256	62137	66830	71727
	1701	6152	10199	14634	18987	23101	27867	30134	35908	41381	46134	51034	57376	62219	66815	71793
	1748	6276	10261	14667	18361	22191	27904	30159	33817	41597	46180	51095	57484	62214	66933	71778
	1870	6341	10300	14682	18417	22942	27918	30223	35315	41611	46386	51095	57549	62258	66962	71788
	1895	6357	10343	14792	18471	23367	28025	30238	35970	41642	46416	51288	57553	62273	67003	72063
	1938	6405	10416	14794	18566	23441	28121	30328	35045	41664	46426	51426	57574	62304	67007	72069
割增金（壹等）	2011	6443	10496	14808	18616	23478	28133	30339	36081	41724	46478	51643	57701	62369	67112	72084
拾圓券壹万圓	2035	6565	10503	14912	18742	23516	28218	30444	36198	41765	46568	51659	57755	62653	67186	72125
	2047	6606	10544	14924	18848	23542	28284	30518	36221	41789	46595	51922	57835	62669	67200	72151
	2054	6669	10736	14934	18876	23631	28381	30527	36389	41844	46755	51937	57889	62971	67239	72212
	2133	6685	10769	15027	18928	23683	28384	30785	36535	41892	46868	52005	57931	62761	67242	72213
	2202	6979	10786	15126	18932	23740	28449	30810	36473	41892	46983	52003	57986	62892	67413	72338
	2400	6829	10843	15141	18944	23750	28649	30846	36513	42074	47001	52055	57987	62898	67435	72500
	2456	6838	11018	15150	18984	23756	28761	30909	36581	42101	47054	52202	58040	62984	67470	72527
	2483	6906	11127	15196	19100	23789	28815	30996	36604	42118	47159	52231	58042	62913	67499	72530
	2534	6945	11139	15492	19157	23854	28908	30999	36609	42179	47362	52299	58053	62935	67499	72549
13198	2627	6985	11154	15452	19202	23870	28909	31011	36653	42298	47492	52324	58091	62976	67507	72562
（貳等）	2829	7006	11234	15472	19345	23894	27065	31022	36691	42307	47426	52331	58098	62985	67630	72643
拾圓券壹万圓	2950	7035	11265	15382	19409	23910	27169	31133	36713	42386	47531	52374	58246	63391	67687	72735
	2969	7108	11398	15614	19492	23924	27187	31211	36837	42305	47559	52394	58249	63114	67737	72814
	2965	7109	11491	15685	19493	23973	27318	31233	36854	42598	47575	52405	58238	63171	67741	72885
	3001	7132	11502	15765	19678	23981	27316	31306	36781	42659	47681	52336	58315	63247	67843	72841
	3165	7273	11576	15791	19699	23211	27355	31601	36974	42748	47680	52371	58355	63344	67874	72892
	3221	7375	11616	15805	19740	23228	27448	31689	38074	43037	48025	53116	58526	63546	68024	73352
	3286	7432	11636	15856	19794	23353	27454	31749	38181	43065	48041	53440	58560	63603	68314	73436
11838	3297	7486	11650	15865	19861	23371	27477	31733	38351	43112	48049	53488	58678	63518	68429	73704
51900	3347	7531	11665	15967	19894	23389	27502	32034	38397	43151	48071	53511	58743	63676	68432	73718
49943	3351	7617	11781	16057	19909	24336	27598	32083	38392	43286	48243	53533	58809	63753	68462	73724
34614	3392	7643	11805	16177	19912	23445	27617	32365	38464	43532	48701	53996	58906	64180	68728	74159
59735	3443	7666	11835	16218	20034	23500	27630	32437	38479	43710	48740	54173	58907	64182	68744	74172
65361	3454	7730	11886	16246	20102	23516	27662	32459	38533	43791	48794	54182	58913	64250	68945	74236
92512	3557	7734	11915	16429	20148	23585	27678	32636	38553	43861	48814	54203	58921	64519	68967	74364
80714	3196	7739	11934	16434	20165	23665	27704	32640	38558	43908	48859	54335	58924	64445	69174	74365
87223	3663	7748	12037	16484	20248	23690	27738	32689	38734	43931	48937	54346	58719	64548	69184	74387
94274	3815	7762	12040	16548	20298	23713	27743	32738	38719	43936	48937	54360	58760	64582	69245	74406
	3867	7768	12106	16815	20324	23724	27757	32775	38133	43958	49013	54732	58814	64585	69294	74434
（參等）	3979	7840	12196	16841	20428	23837	27844	32808	39229	44166	49207	54741	58850	64650	69329	74443
拾圓券壹万圓	4019	7903	12315	16892	20430	23884	27871	32926	39263	44423	49333	54764	58865	64826	69340	74452
	4097	7976	12334	17082	20483	23906	27934	32943	39297	44542	49451	54834	58869	64800	69710	74558
	4094	8134	12419	17086	20493	23971	27958	33009	39307	44604	49509	54888	58987	64927	69719	74588
	4230	8135	12439	17176	20568	23977	28066	33042	39389	44614	49526	55007	60033	64941	69854	74602
	4249	8191	12497	17174	20584	24006	28093	33048	39651	44634	49575	55014	60236	64944	70030	74657
	4245	8209	12576	17193	20647	24047	28139	33106	39652	44740	49585	55079	60314	65137	70082	74665
	4318	8219	12613	17229	20650	24056	28236	33162	39664	44798	49605	55119	60407	65164	70103	74675
3	4433	8253	12689	17264	20747	24088	28349	33222	39756	44834	49633	55113	60416	65319	70107	74677
9	4485	8330	12670	17284	20766	24140	28371	33271	39833	44892	49688	55145	60428	65343	70187	74764
46	4543	8429	12693	17297	20889	24197	28383	33362	39855	44956	49731	55175	60433	65344	70258	74899
59	4703	8438	12844	17429	20918	24203	28479	33398	39861	45127	49763	55261	60577	65427	70283	74882
102	4810	8534	12883	17428	20986	24227	28533	33408	39898	45132	49794	55466	60612	65434	70327	74912
114	4884	8506	13020	17661	20992	24334	28682	33433	39970	45162	49881	55513	60648	65442	70336	74938
179	4897	8712	13028	17687	21043	24343	28712	33539	40108	45186	50063	55635	60703	65559	70406	74998
219	4917	8726	13039	17688	21084	24356	28715	33635	40178	45197	50199	55639	60739	65645	70423	75069
262	5113	8738	13063	17689	21178	24363	28765	34072	40287	45212	50185	55743	60768	65740	70459	75189
400	5114	8755	13071	17728	21272	24366	28816	34128	40337	45277	50259	55754	60860	65871	70728	75237
455	5100	8827	13112	17776	21297	24505	28833	34142	40339	45292	50264	55860	60978	65873	70760	75302
658	5185	8828	13172	17788	21297	24619	28863	34204	40532	45318	50285	55885	60982	65880	70946	75329
713	5218	8941	13205	17797	21405	24656	28934	34312	40726	45347	50336	56080	61030	66159	70992	75339
738	5228	9066	13225	17798	21473	24687	29018	34363	40727	45379	50400	56113	61033	66182	71102	75360
812	5269	9086	13283	17833	21538	24724	29218	34392	40744	45435	50432	56124	61104	66238	71119	75391
872	5312	9120	13299	17846	21539	24728	29360	34634	40748	45454	50457	56222	61109	66321	71120	75349
886	5324	9271	13431	17861	21577	24733	29435	34683	40759	45463	50458	56426	61208	66332	71136	75418
983	5338	9108	13509	17877	21633	24745	29583	34688	40779	45528	50496	56500	61289	66365	71181	75658
1073	5368	9435	13537	18024	21788	24744	29703	34794	40826	45590	50502	56312	61291	66390	71269	75693
1216	5311	9446	13547	18065	21826	24866	29704	35136	40945	45639	50507	56496	61415	66423	71342	75688
1285	5341	9566	13647	18093	21837	24960	29734	35198	41001	45684	50689	56463	61465	66434	71345	75799
1328	5345	9677	13814	18131	21883	25074	29817	35258	41031	45726	50699	56471	61560	66462	71359	76136
1390	5763	9749	13907	18137	21897	25140	29857	35345	41043	45780	50751	56985	61535	66476	71434	76164
1426	5797	9838	13990	18164	22015	25223	30005	35356	41172	45803	50781	56941	61759	66530	71458	76254
1432	5821	9850	14133	18197	22022	25456	30037	35363	41215	45837	50840	57084	61870	66587	71491	76320
												57141	61928	66630	71507	

十二月八日ヨリ・第十二周戰時債券賣出・十五圓